

平成30年度

第1回

豊橋市 子ども・子育て会議

日 時 平成30年7月30日(月)

場 所 豊橋市役所東館8階 85・86会議室

平成30年度 第1回  
豊橋市 子ども・子育て会議

日時	平成30年7月30日（月）午後2時～3時30分
会場	豊橋市役所 東85・86会議室
出席者	委員：別紙出席者名簿のとおり 16名 事務局：こども未来部長 【こども未来政策課】課長、課長補佐、小野主査、鈴木主査、森本 【こども未来館】事務長 【こども家庭課】課長、主幹、専門員 【こども若者総合相談支援センター】センター長、副センター長 【保育課】課長、主幹、専門員、三ツ矢補佐、末吉主査、大岩主査、上水主査 【こども保健課】課長
欠席者	委員8名 荒木 功次委員（豊橋市民生委員児童委員協議会主任児童委員代表） 今橋 厚保磨委員（三宝こども園長） 村田 周治郎委員（正林寺保育園長） 加島 大輔委員（愛知大学准教授） 佐野 真一郎委員（豊橋創造大学短期大学部教授） 福井 眞理子委員（豊橋市母子福祉会長） 川合 基弘委員（豊橋市青少年センター長） 大辻 祥子委員（株式会社サーラコーポレーション人事戦略部長）

開会

定刻となりましたのでただいまより、平成30年度第1回豊橋市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

では、会議の開催に当たりまして、豊橋市こども未来部長より御挨拶を申し上げます。

1. あいさつ

こども未来部長

皆さん、こんにちは。こども未来部の鈴木でございます。本日はお忙しい中、また、暑さの厳しい折に、今年度、第1回の子ども・子育て会議に御出席いただきましてありがとうございます。子ども・子育て支援新制度ということでスタートいたしまして、ことしが4年目ということになりました。この新制度にあわせまして、子ども・子育て応援プランというものも策定いたしまして、そのプランに従いまして、これまでいろいろな事業、施策について進めてきたわけでございます。昨年度、この会議におきまして、中間評価ということで御確認をいただいた分もございませうが、そのプランにつきまして、来年度が計画最終年度となります。ですので、今年度、来年度の2カ年にかけて、次のプランの改訂作業というものを進めてまいりますので、また、この会議を通しまして、委員の皆様にもいろいろ御協議いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

子ども、それから子育てにつきましては、このプラン策定後もいろいろな状況の変化がござい

ます。最大の課題であります少子化の問題ですけれども、昨年度の豊橋市の出生数につきましては、これまで見たこともないような数字になっております。また、同様に出生率につきましても伸び悩みというような状況がございます。

また、そうした中で来年度でございますけれども、国のほうは幼児教育の無償化ということをご予定しております、現在、あちらこちらで待機児童という問題がありますけれども、そちらのほうにも少なからず影響が出てくるものというふうにご考えております。

また、子どもの虐待も後を絶たないというような状況でございます。こうした厳しい状況、環境の変化がございますけれども、そうした中でも豊橋市が子育てしやすい、子どもに優しいというようなまちにしていけるよう、そういったプランづくりをしていきたいというふうにご考えておりますので、どうぞ委員の皆様もそれぞれの御立場から御意見いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

司会

では、続きまして、藤城会長より御挨拶をお願いいたします。

藤城会長

こんにちは。台風が過ぎていかがでしたか。被害はそんなにはなかったでしょうか。いつもとちょっと風向きが変わっていたということで、私どもの園のほうでも、実は木の枝の折れ方が少し違ってふだんなら持ちこたえられるような近くの森の木が大分変なふう折れて、ねじ曲がって折れているようなそんないつもとちょっと違うなというようなことを何となく感じました。あの根の張り方がいつもはこっち側に張ってしっかり踏ん張っているのに、逆から吹かれてしまったので、倒れてしまっているというようなところも幾つか見させていただいたりして、何か違うことが起きると大変だな。日本全国いろんなことがたくさんありますけれども、幸いにしてこの辺はそんなに大きな災害もなく過ごしていることをありがたいと思っておりますけれども、そんな中で、今日、また暑さがしっかりとぶり返してきた。そんな中でお集まりいただきまして、ありがとうございます。

私は遅くなりましたが、後先になりましたけれども、豊橋幼稚園協会の会長をしております、希望が丘こども園の藤城民男と申します。どうかよろしくをお願いいたします。子ども・子育て、今も部長さんからの説明がございましたけれども、本当に、子どもを育てていくというのは、いろんな環境の中で日々刻々といろんな状況が移り変わっていきます。そんな中できょうお集まりの委員の皆さん方には、いろんなお立場の中から多くの発言を今まででもいただいておりますし、また、きょうは新しく今年度から顔を見せていただいている委員も何名かもお越しいただいていると思っておりますけれども、この会議で出てきたこと、このことは当然記録には全部残っていくわけですけれども、ここで出てきたことというのは、結構この部局がしっかりと聞いていただいて、そして、いろいろ吟味をしていただく中で、その実施に向けてしっかりと実行していただいているなど、そんなことを実は私個人的にはとても感じておりますが、そういった意味で皆さん、お一人お一人の発言が貴重な発言の意見となっていくと思っております。単なる会議ということではなくて、本当に皆さんが、それぞれ日々お感じいただいているような、子どもが本当に幸せに育つにはどうしたらいいのかというようなところをしっかりとこの場でたくさん出していただいて、それを行政当局の皆さん方にお聞きをいただいて、これを市政に反映していただけたら、より子どもたちにとって暮らしやすい、住みやすい、そんな世の中、そんな豊橋市になっていくのかなとこんなことを感じておりますので、今日も限られた時間ではございますけれども、どうか皆さん方の思っていることを十分にこの場でお出しただけをお願いを申し上げて、私の挨拶

にさせていただきます。今日はよろしく願いいたします。

## 副会長の選任

司会

藤城会長、ありがとうございました。

では、これより着座により進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

続きまして、副会長でありました豊橋市社会福祉協議会事務局長の松井様が3月末で退任されましたので、新たに副会長を選出していただく必要がございます。副会長においては、会長が指名することとなっておりますので、藤城会長、どなたかの御指名をお願いいたします。

藤城会長

それでは、副会長に松井委員の後任でございます、豊橋市社会福祉協議会事務局長の福岡吉彦委員を指名したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

司会

では、福岡委員をという御指名ですが、福岡委員、よろしいでしょうか。ありがとうございます。皆様、よろしいでしょうか。

(拍手)

司会

ありがとうございました。

それでは、福岡委員は副会長席へ御移動をお願いいたします。

では、新たに就任されました福岡副会長より、一言御挨拶をお願いいたします。

福岡副会長

皆さん、改めましてこんにちは。4月より事務局長として就任をしました福岡と申します。前任者に引き続きましての副会長ということで、皆様に御迷惑をかけないように、勉強しながらやらさせていただきますと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

司会

ありがとうございました。

続きまして、新しい委員の方もお見えになりますので、星野委員より順に各委員、事務局からの自己紹介をしてみたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(委員・事務局の自己紹介)

司会

それでは、ここからは会長に議事の進行をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

## 2. 子ども・子育て応援プランニーズ調査の実施について

藤城会長

それでは、ここから私のほうで進めさせていただきます。

きょうは、傍聴の方もお越しになっておられます。傍聴席におられる皆様方はいかが決まりがごございますので、そちらをお守りいただきまして、傍聴をよろしくお願ひしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

それでは、早速議題のほうに入ってまいりたいと思います。次第の2、子ども・子育て応援プランニーズ調査の実施についてに入りたいと思います。1から3までは関連する内容となります。一緒に議事を進めてまいりたいと思いますが、少しボリュームがありますけれども、時間がしつかりかかるとは思いますけれども、一度ずっと聞いてそれから皆さん方にいろんな御意見を賜ってまいりたいと思いますが、よろしくお願ひします。

それでは、事務局さんよろしくお願ひいたします。

### 事務局説明

- ・子ども・子育て応援プランの概要 …… 資料1
- ・子ども・子育て応援プラン本編・概要版
- ・次期計画策定方針 …… 資料2
- ・次期計画策定スケジュール …… 資料3
- ・ニーズ調査の概要及び調査項目の検討 …… 資料4
- ・H25年度ニーズ調査項目一覧（就学前用）（就学後用） …… 資料5-1、5-2
- ・H25 ニーズ調査アンケート用紙（就学前用）（就学後用） …… 資料6-1、6-2
- ・ニーズ調査項目の検討（各課の意見等） …… 資料7
- ・ニーズ調査項目の検討 記入票 …… 資料8

藤城会長

はい、今事務局のほうから、すごいボリュームの説明がありました。皆さん、本当に数日、一日、二日前にしか届かなかったとしますので、じっくり見てくるというような時間もおありにならなかったかもしれませんけれども、今、説明をいただきました中で、事務局に対して何か御質問等がございましたら、その質問を先にお伺いさせていただきたいと思うんですがいかがでしょうか。どなたか。

清水委員

基本的なことをお伺いしたいのですが、ニーズ調査の調査対象が約1万世帯ということでこれはいいと思うんですけども、その後の配布回収計画を見ると配布枚数が9,600枚ですのでそこは100%回収されると1万世帯ぐらいになると思うのですが、見込みを見ると、単純計算しちゃうと5,700枚ぐらいしか返ってこないというような状況の中で、それはニーズがきちんと傾向がわかるのかどうかというのが、それだけくれば大体の傾向がわかってニーズもわかるよということであれば結構なんですけれども、きちんともう少し多くとらないとなると、配布枚数を増やす必要があるのではないかなというふうに思いまして、ちょっと御質問させていただきました。

藤城会長

清水委員のほうから、以上、お聞きになったような御質問なんですが、前回と比べて同じような数字になるのかどうなのかも含めてお答えがいただけたらと思います。

こども未来政策課長補佐

5年前、前回の事業計画策定の際には、およそ1万2,000枚ほど郵送で送っております。回収率のほうは50%と見込んでおりました、大体6,000枚ぐらいということで、それがある程度ニーズを把握するのに必要な数字ということで、およそ1万2,000枚のうちの半分、6,000枚ぐらいが入手できればニーズとしてはある程度把握ができるというようなもとの1万2,000枚を郵送で発送しているんですけども、今回、1万枚とした理由としましては、前回、5年前につきましては、各市内全域でそれぞれの地域、階層別に数字を出しまして、住民基本台帳のほうから抽出したお宅のほうに発送をかけているんですけども、今年度につきましては、小学校のほうから各御家庭に調査票を各校区9区域に分けさせていただきまして、そこから配らせていただきまして、回収ということで70%の回収率を見込めるのではないかとということで、今回の数字を出させていただいております。70%の根拠としましては、以前、平成28年度2月に子ども調査というものをこちらでやりまして、その際は学校のほうに配布をしまして、郵送回収ということで56%ぐらいの回収率だったんですけども、愛知県のほうも同様に行っております調査について、学校で配布して学校で回収とした際には、70%を超える回収率がありましたので、それが見込めるのではないかとということで、数を減らしまして70%の回収率ということで数字を減らしております。

また、3歳児、4歳児、5歳児につきましても、保育園、幼稚園のほうに御協力をお願いしまして、同じように保育園のほうで配りまして、保育園のほうで回収ということでゼロ歳児、1歳児、2歳児につきましては、住民基本台帳のほうから抽出をさせていただいて発送し、郵送で回収ということで、ここについては回収率が下がるのではないかとということで見込んでこのような数字になっております。

以上です。

藤城会長

というお答えでございます。質問にすぐ答えていただいたような形ですが、そもそも論で質問を返してもよろしいでしょうか。6,000枚という数字が適正だという理由は何があるんですか。

こども未来政策課長補佐

一応、5年前に標本の大きさの算定ということで、5年前につきましてはこのアンケート調査から発送（国はもっと早い段階から方向性を示しておりましたので）も委託業者が実施しております、そここの規模の人口に対してどれだけの標本数があればニーズとして把握ができるのかというような数値を出すようになっておりました、それに基づいてこの数字、6,000という数字が出ておりましたので、そこに当てはめさせていただきまして、今回はその数字を出させていただいております。

藤城会長

という根拠だそうですね。よろしいですか。ほかに質問として何かございますか。

高部委員

今、清水さんの質問の部分にかぶるんですけれども、今、配布回収の宛先に関しては資料4の裏面に書かれているんですけれども、3歳から11歳までについては園や学校に依頼ということで、ゼロから2歳についてももちろんこれは任意ですけれども、郵送というようになっていると記載されています。ここに関しては郵送なものですから回収率は40%というふうに記載もされているんですけれども、ゼロから2歳の中での人口比率の問題も当然あるんですけれども、一部やはり3から5歳と同じように認定こども園または保育園等で、ゼロから2歳のところも一部園での配布回収というのをやって、回収率を上げることが目的ではないんですけれども、働いている方々がゼロから2歳で預けるというようなことに当然なるんですけれども、そうした人たちの意見をやはり郵送以外に3歳から11歳までのような形の分類のものに含めたデータを把握するというので、園での扱いを加味したらいかがという提案発言です。

藤城会長

お聞きになったとおりでございますけれども、高部委員の言われることもごもっともかなと、こんなふうに思うわけですが、今、多くの方たちがゼロ、1、2歳について保育園、こども園にお預けになっている方たちが大勢みえる。その方たちの意向というものをしっかりした意向がおありになるだろうし、お子さんを御家庭でお母さんのそばにおいて育てておられるという方たちの一つのいろんなニーズもあるでしょうしというところが、回収率を上げることによって、もう少し何か働いている方たちの御家庭のニーズというようなものがより出てくる気がするのではないかと。そんなようにも伺えたんですが、その辺はどうですか。

こども未来政策課長

今の御意見ですけれども、現在、1、2歳だけでもそういった保育園、認定こども園に通われているお子様が大体人口の40%近くの方が世帯としてあるというふうにこちらのほうで把握しておりまして、今回、ゼロから2歳につきましては、そういった中で無作為の抽出をさせていただきますので、その中の割合がこれと同じぐらいになるかというのは定かではないんですけれども、今現在、準備の関係もございまして、園のほうにお願いできるかというのは現時点ではすぐ即答はできないんですけれども、そういう状況ですのでよっぽど、郵送でもそれぐらいの割合の多くの方、働いている方の御意見を抽出できるのではないかなというふうには考えております。

以上です。

藤城会長

ということですね。回収率の問題ですね。抽出でくるので無作為に送るものだから、ばらばらと行くのは確かなんですが、回収がどこまでというのは園で回収するとなぜか回収率がいいですよ。不思議にね。どんなことでも回収、意外と戻ってくるのかな。そんなところの御指摘かなと思うわけですが、高部委員いかがですか。

高部委員

今、実務的には煩雑になると思うんですよね。ゼロから2歳の中で郵送の部分と園で配布という、まず認定こども園等を指定すると、そこと郵送の分とのダブリを精査して実務をやるということになると、そういう作業があると思うんですけれども、やはり多分、郵送での回収率が40%というふうに、これは前回の実績を多分そのままプリントされているということがベースにあると思うんですけれども、やはり正確なものを少しでもつくっていくという作業努力を再度事務局のほうでは検討していただきたいと。これ以上のことは差し控えます。

藤城会長

という御意見をいただいております。

そのほかの御質問はありますか。膨大な資料でしたがいかがでしたか。御質問がありましたら。特には。

加藤委員

ニーズ調査を実施したときに、その後の結果の集計がされると思うんですけども、その後、調査された方、お母さんたちが見るに当たってこの調査の何か結果というのは見られるんですか。結果ですね、どういった形でというか。ホームページか何かで見られるとか、そういったのはありますか。アンケートだけやられてその後の結果というのは、多分お母さんたちもどんなふうな結果が出たのか知りたいと思うんですけども、集計分析されてその後の結果というのがすぐそこで何かお母さん、やられた方、個人を特定するものではないのでどなたがやられたかわかりませんけれども、やった方が結果はどういうふうになったのかというのがもう少しわかればもっと回収率があるのではないかなと思うんですけども。

藤城会長

多分、直接的に結果は多分ないと思うんですけども、確か前回もありましたよね。

こども未来政策課長

集計結果等は公表させていただいておりますので、今回も同様に公表させていただく予定であります。ただ、個別にというのはちょっと難しいので、そちらを各自確認いただくという形になるのかなというふうに思います。

加藤委員

それに当たり前の段階で、アンケート用紙をもらった時点でそこに何か書いてあるということですか。何か広報に載ったりとか、アンケートをもらった時点で公表方法がわかるようなものであれば、回収率も上がるのではないかと思います。

こども未来政策課長

資料6のほうが前回の調査表になるんですけども、そちらには特にそういったことが記載されておりませんので、今言った御意見等も参考にさせていただいて、今回の調査票のほうにできる範囲でそういったことも加味した上で作成できればなと思っております。

藤城会長

という御意見ですので、また検討しておいていただければと思います。そのほかはどうでしょうか。いろんな方が見て、いろんなところに気づくといいものができていくと思いますので、何かお気づきになったら御発言をいただければと思います。質問的にはよろしいですか。何かありますか。

中矢委員

私子育てに対するそういうアンケートのほうは市から送られたことはないんですけども、過去3回ほど、最近もそうですけれども、豊橋市のほうからアンケートを送られてくることありまして、今回送られてきたアンケートの中では郵送ではなくて郵送かもしくはQRコードの形が



あったんです。そのQRコードは今スマホ世代ですので、そうすればゼロ歳から2歳児のお母さん方も携帯だったらLINEとかもあって、SNSも見ることもあるので、どちらかという文字がすごく小さくて見にくかったんですが回答はしやすいかなというのは、私は今回思ったんですけども、その辺はどう考えてますか。

藤城会長

最近よくあるものなんですが。

こども未来政策課長補佐

現時点では郵送で考えておりましたけれども、今の御意見をいただきまして可能かどうか検討させていただきたいと思います。

藤城会長

スマホのQRコードでやるというのもあれですよ。誰でもやれちゃうといけないものですから、そのQRコードがきちんとしていないとばあっと適当に自分と同じような意見ばかり集めてみんなにやれやれというふうになっちゃうとおかしくなってしまうので、よくきちんと管理されてそれぞれの個人番号がきちんとしていて、QRコードで答えていくというやり方なら、変なものは上がってこないように思いますけれども、何か役所がそういう仕組みを活用できれば可能性は今後あるかもしれないですね。一度、御検討いただければと思います。そのほか御質問はどうですか。

それでは質問も含めてなんですが、次に移って行きたいと思います。それぞれの委員にこれから今日いろんな意味で少し見直しをしていきたいというニーズ調査の原稿というほうがわかりやすいのかもしれませんが、前回つくられたものの中で、国がきちんとこれは必須案件だというようなものは多分同じようなことで今回も上がってくるのかなと。こんなことを思うわけですが、それ以外の部分、網掛けになっていないような部分につきましては、削除するなり加えるなり、いろんなことが豊橋市独自でできていくわけでございますので、その辺について何か御意見をいっぱいいただきたいと思います。こういった項目は入れたほうがいいのかとか、これは要らないんじゃないのかとか、これはわかりにくいぞとか、そういうふうなところをいろいろと出していただいてよりいいものにしていきたいなとこんなふうに思っているわけですが、いかがでしょうか。それぞれ時間が余りなかった中なんですが、もしお目通しをしていただいたり、この会議の中でまた見ていただいたりした具合で御意見等がございましたら、出していただきたいと思いますけどいかがでしょうか。

星野委員

よろしくをお願いします。

ニーズ調査は全体にかかる分もあるんですけども、このニーズ調査については子育ての部分がメインだと思うんです。子ども・子育て応援プランなので、子育ての部分での視点というのをいかに拾っていくのかというのが重要だと。これは個人的に思うわけですね。過去のというか、前回も見ますと、全くゼロではないと思っています。ただ、昨今の子どもを取り巻くいろいろな問題の中で、子どもの育ちということ考えた場合に、子ども自身の意見聴取というかニーズ調査というのは実は必要なのではないかなというふうに思っています。ちょっとこれと関連づける、これとは別にすべきかもしれないですけども。いずれかの方法で子どもたちが何を考えて成長しているのかということを見ていかないと、大人の一方的な部分で決めていってしまうと、この子ども・子育て、子育ての部分はいいいと思うんです。子どもの部分がちょっと少なくてなって

しまうのかなということも思っておりますので、そういったところも今後は検討していったらどうかというようなことを思っております。

藤城会長

ありがとうございます。子ども自身のニーズみたいなものを拾ってはどうかという御意見もいただきました。

こども未来政策課長

今の星野委員の御意見も本当に、実際、大人が子どものためによかれと書いていろいろ考えてやっているところですが、実際の子どものどういうふうにそれを考えていたり、受け入れたりという部分の視点も重要だというのは御意見としてよくわかりますが、実際のやり方というところでいいますと、どういうのがいいのかなというのは、今本当に難しい宿題をいただいたのかなというふうに考えております。

星野委員

例えばなんですけれども、これと別に切り離して中高生、大学もあるところで次の親世代になる子どもたちに、今現在、例えば、自分たちの意思だとか意見というものがどれぐらい家庭の中、社会の中で反映されているのかとともに、自分たちが今度親になったときに子育てだとか、親になったときの不安だとか、希望だとかいうものをどう考えているのかということのもあらかじめ把握しておくのとそれに向けた施策というの打てるのではないかなと思っております。今回ののはこれはこれとしていいと思うんですけれども、この中にある子どもの権利条約等、知っている知らないだけではなくて、また、そういう立脚した施策というの、あるいは推進できるのかなということちょっと思っています。

こども未来政策課長

ありがとうございます。いろいろ考えさせていただきます。

藤城会長

ほかにございませんか。どんなところでも結構です。今回は主にこのニーズ調査、項目というところをしっかりと煮詰めていきたいというのが一番の、最大の目的ではありますがけれども、せっかくの会議でございますので、いろんな御意見をたくさんいただきながら、実際に、現実に行っている施策にも反映していくことが可能ではございますので、皆様のおもちになっている御意見も含めてたくさんいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

吉田委員

ゆずり葉の吉田と申します。以前に一度このお話をさせていただいたかどうかと思うんですけれども、言葉だけのことなんですけれども、サービスという言葉が使われていると。そのことについて今ここで皆さん議論をされていて、そして、心を砕いていらっしゃることにに関して、全てのところでサービスという言葉を使っているわけではないんですけれども、この中にあるサービスというのがちょっと私にはなじみかねる部分がございますして、私どもも支援活動をしているわけなんですけれども、そこにサービスを提供しているという感覚ではなくて、やはりともに一緒に頑張らしましょうね。お母さんたちによりよい子どもとの関係をつくっていただきたいというそういう思いでやっていますので、なんとかそこが違う言葉にならないかなというのは少しございますが、いかがでしょうか。

## 藤城会長

とっても実は深い言葉なんです、サービスですと流していってしまうというのも、やっぱりちょっとなど考えておられる方たちもたくさんおられると思うわけですね。そういったところを、行政のほうとしてもしっかりともう一度考えをゼロに戻していただいて、サービス、サービスという言葉が本当に何でもサービスというのをつけていけば、それで寄り添っていているような気になってしまうという現実もあるような気がします、やっぱりともに育っていくというそういう感覚でないといけないんだろうなということです。 「ともそだち」みたいなことですね。そういうような何か、ワードが得意な方はキーワードを出していただくとそれがいい言葉として定着するのかもしれませんが、サービスというとなんかサービスだから、みんなが勝手にやってくれるものだと受ける側がしちゃうだろうし、する側はサービスだからと押しつけていっちゃうだろうし、難しいところがたくさんありますよね。そのところをやっぱり逆に言ったらフィフティフィフティなんだ、一緒に育っていくんだぞということです。そのところをしっかりと自立していきたいもんです。とってもいい意見だと思いますので、ぜひ、行政の皆さん方もその辺、頭の中に入れておいていただいて、よりよい言葉がどこか見つければそんなふうに変更していただくと、きっとより深みが増してくるのかなと。こんなような気がしますよね。

## 高部委員

質問というか要請なんですけれども、8月10日までに資料8の提出が求められているわけですね。これに対しての意見ということで、資料7で各課の意見等という新たな追加項目、削除項目の記載があるんですけれども、先ほどの説明だけだとページ数が多いから、質問項目数が多いから削除すべきだという意見と同時に2から6までについては追加と。先ほどの説明だけで追加の中身が具体的に、例えば、設問項目でどうなるのかということがこれだけの説明、意図欄ではちょっとどういう表現になるのかということがはっきりわかりかねるんですね。その点ではちょっと8月10日までの例えば、追加と削除のことがこれだけだと正直なところ判断しかねる部分が多いというふうに思うんです。時間が限られている中なんですけれども、2から6までの問題について例えば、6番などは豊橋駅付近の町なかで通勤途上に利用できる子育て支援施設を利用したいと。例えば、そういう中にここにこんなかは多分駅から5分ですか。ですから、そうなるこの6番の中にここにこが入るというふうに例えばなると、そういうふうな理解になると、こういうふうな表現というのがどうなんだというふうにも判断を迷うんですね。追加が必要かどうかと。あと例えば、4と5、5の問題については非常に意味、表現が難しく、例えば設問で、あなたはなぜ嫌いですか、みたいなこういう設問というのは正直なところ多分、今先ほど吉田さんも言われましたけれども、行政と市民との関係というのは、税金を納めてサービスを受けるという関係というふうに一般的には言われるんですけども、ただそういうふうなものだけではないというふうに先ほど藤城さんも吉田さんも言われてるわけで、そういう中に例えば、4番、5番みたく何でそういうのに参加しないの。何で好きじゃないの。こういうのは非常に判然としない設問の意図になってしまって、私もそれは確かに、選挙の投票率なんかで若い人たちが本当に投票率が低いと。私も市内で一番投票率が低い地区に住んでいるもので、本当にそういう問題も含めて行政との関係というのをもっといろいろ考えないと大変なことになるなと思ってはいるんですけれども、そこら辺も含めてちょっと2から6までのことに関して、もし8月10日までにわかりやすいコメント。現在、この場でできれば一番簡単なんですけれども、追加で御説明を願えたらと。

藤城会長

という御意見です。追加で御説明がいただければ、もしできなければ何か書面でも送っていたくとかでも結構ですがいかがですか。

こども未来政策課長

では、一応2から6は、現在、前回の質問項目の中でもうちょっと追加できないかということで各課からいただいた意見を示させていただいたんですけれども、もうちょっと今の御質問に対することにつきましては、各課からそれぞれいただいた意図をもう少し詳しく聞くなりして、また、別の形で示させていただいて、今すぐというのは難しいかなと思いますのでそういう形でよろしいでしょうか。

藤城会長

ということだそうですので、よろしく願いいたします。

そのほかいかがですか。何かございますか。特にありませんというのか、時間が余り多分、書類が1週間、10日ぐらい前にきたようなら、きっとじっくりごらんいただいたと思いますけれども、前回おつくりいただいた5年、6年前のところに御参加をいただいている委員の皆さん方はこの前やったようなという中で見ておられるので、何となくは理解がいただけると思うのですが、初めてこれをぼんと見てしまうとどこがわからないのかわからんと。こういうことなのかもしれないですね。せっかく御出席をいただいておりますので、あと15分ほど予定した時間がございます。ひとり一言ぐらいずつ御発言をいただけるとありがたいと思いますので、どんなことでも結構ですので、御意見でも結構ですし、どんなことでも構いませんので、順番に少しお声をせっかくですからいただければなと思いますが、特に発言をいただいている方。市川先生のところから順番にいきましょうか。

市川委員

ちょうど前回の平成25年のアンケートですけれども、自分が記入した覚えがございます。ちょっとボリュームがすごいものですから、特にうちは共働きの家庭なんですけど、とつてもしんどかったのを覚えております。その辺を見てせっかく書いたものですから、ぜひ、生かしていただきたいというのと、逆に書きたくても書けないという。回答できないというそんな家庭もあるのではないかなと思いますので、その辺、集まったデータをもとにして、また、意見をあげたいんだけどあげられないという。そんなうちのような苦しい家庭もあるものですから、その辺も酌んでいただければと存じますので、よろしく願いいたします。

武田委員

私のほうは児童相談所ですので、一番気がかりなのはやはり皆さん、さっきも言っていましたけれども虐待の問題ですね。豊橋市のほうはかなり先進的にいろいろな取り組みをしていただいているように思っておりますけれども、職員の充実のほうをぜひお願いしたいなというのが私どもの願いですので、その辺をまた配慮していただければいいかなというふうに思っております。

三浦委員

調査につきまして、小学校分につきましては、既に、かなり早目に市の教育委員会のほうを通じて校長会に御依頼いただいておりますので、全面的に協力させていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

なお、先ほど子どもからの意見を聞いたらどうだというお話が出たときに、とつさに私は対象

となる児童、君たちはどう考えるのと勝手に思っちゃったんですけれども、そうではないですよ。もしそういうことになると、多くの方がかかわってみえると思うんですけれども、例えば、学校評価のアンケートを全校で行っているわけなんですけれども、文字を見て答えられる子というのは、小学校3年生か4年生以上でございますので、余り小さい子は対象にできないよということは申し添えておきたいかなと思います。全部平仮名で書いてわかりやすくとか、そこは御承知おきください。非常に細かくアンケートを設定していただきました。きょう、読ませていただいてもれないと思いますし、必要なことだろうと思うんですけれども、さっき申しました学校評価のアンケートでいいますと、始まってかれこれ15年近くたつわけなんです、10項目から20項目ぐらいでないかと答えてもらえないよというのが現実です。学校のほうとしてはなるべく抑えていくものですから、これは全部答えていただくということはかなり意欲があって答えてくれる方のお答えなんだろうということを思います。中にありました、経済的な状況もあわせて把握したほうがいいのかというのはまさにそうだと思いますのでいいかなと思うんですけれども、きっと一番最初の家庭状況等欄に世帯の合計所得なんかを階層別にしておいてどれが幾らというふうになるのかなとイメージしながら聞いておりました。また、次に出てくるものを見させていただけたらと思います。

以上です。

丹羽委員

丹羽といいます。大体このアンケートはどれぐらいの時間で答えられるという想定でつくられているのかをお聞きしておこうかなと。

事務局

1時間ぐらい。いろいろと考えながら本当に見ようと思うとそれぐらいかかってしまうと思います。

丹羽委員

3分から1時間ぐらいということで、やはり見させていただいて自分が答える側になったときに、結構ボリュームが多いと思うことと選択肢がかなり多いのかなと。その選択肢を読むだけでも例えば、問28の子育てに関する悩みや不安感について伺いますで、1から15まで選択肢があるということで、この選択肢を読み込んで自分なりに理解するだけでも結構時間がかかってしまうかなと。簡素化するとか、フリースペースみたいな形で不安や悩みってある方は本当に書けるのかなとも思いますので、そういう余り読まなくてもいいような形にしてはどうかとも思います。

以上です。

水野委員

昨日のこのちょうど追加の質問の中にあつたダブルケアの問題ということで、私の周りにも実際に40歳を超えて初産という方もみえて、たまたまその方は本当にまだ子どもが3カ月で、親が倒れてしまったという状況で、お母さんが倒れてしまったので、お父さんというか、おじいちゃんが何もできないみたいな形ですごく困っている現実とかがあつたので、今の高齢出産といわれる時代にもなつてきているので、そういう方はかなり多いんだろうなというふうに思つたので、あわせて私もおじいちゃん、おばあちゃんにちょっと面倒を見てとお願いをするんですけれども、いつでもいいよと言いつつも何かあるときにちょっと困るんだけどみたいなのもあつたりもするので、実際のおじいちゃん、おばあちゃん、子ども、孫の受け入れ方を本当はどう思っているの

かなというのを親的には知りたいなというのがあります。実は疲れちゃうんだよねというのを会社とかでも、周りのおじいちゃん、おばあちゃんとかに聞いたりとかすることもあるので、その辺もあったらなというふうに思いました。

#### 後藤委員

豊障連という団体の性格上、障害をもつ子どもについていろいろ考えさせていただいたんですが、5年前のアンケート調査のときには余り自分も気づかなかったんですが、まず就学後のお子さんに対してなんですけれども、実際には障害をもっていて、地域の学校に通っていらっしゃる方もいらっしゃいますし、地域の学校に行けずに特別支援学校のほうに行っている方、特別支援学校のほうでも通学ができずに医療的ケアが重くて、先生に御自宅に来ていただくという訪問教育を受けている方がいらっしゃるんですけれども、絶対数が少ないのでこのアンケートの中に載ってくることもないのかなとは思うんですけれども、そのあたりの意見も聞いてもらえるのかな。たまたま御兄弟のほうにアンケートが来てそれにひっかけてということもあるのかもしれないんですけれども、学校のほうにアンケートの回収を求めるということは、特別支援学校に通う子どもに対しては全く意見は出せないということですよ。

#### こども未来政策課長

支援学校のほうは、今回調査の依頼をしてないですから、実質的にはそういった方なんだろうのはなかなか。

#### 後藤委員

そうですね。種類が違ってくるのかなとは思ったんですけれども、そのところで前は多分、郵送なのでそれにひっかかってくるのかなと思うんですけれども、今回は対象外になってしまうんだなとふと思ったということと、5年前は対象ではなかったんですけれども、保育園、幼稚園、地域の小学校において、ことしの4月から、私もちょっときちんと説明できないんですが、医療的ケアがあって特別な支援を受けられる教育機関のほうに行かないといけなかった方たちも、地域の学校や保育園、幼稚園のほうを選択して、その際に医療的ケアをできる看護師がいない場合がほとんどだと思うんですけれども、その際にお母さんがケアのほうに向かうということは今までもあったと思うんですけれども、いけない日も当然出てきて、その場合に欠席をせざるを得ないとか、そういうことが今まで出てきたと思うんですが、まだ具体的にはそれが動いていないと聞いていますが、豊橋市のほうではそういった児童に対しての補助金がでるということで訪問看護師と契約をして、保育園、幼稚園、小学校のほうに出向いていただけるというようなこともあるので、今後、また平等性が出てくるかもしれないんですけれども、今現在、そういった看護師の支援が受けられずに、本当は保育園に行きたかった、幼稚園に行きたかった方が児童発達支援のほうにどうしても行かなくてはいけなくなってしまっているかもしれないので、そのあたりの理由がどのような。ただ、定員がいっぱいで入れなかったのではなくて、違った理由で行けない方もいらっしゃるかなと思いますので、今回、ここに反映させるのは難しいかなと思うんですけれども、そのあたりも障害の場合は教育と保育とずれる部分も出てくるかもしれないかもしれませんけれども、本来、受けるべき教育が受けられないという部分をもう少し反映できるような内容にしてもらえるといいのかなと、間際で思いつきました。また、よろしく願いいたします。

#### 高柳委員

こういったアンケートをこんなに詳細にされているということ、今回の機会を通じて初めて知りました。やっぱり皆様のニーズを得るにはこのぐらいのことが必要なのかと思いましたが、

特にこのゼロ歳から2歳という手の放せない、特に母親なんかは手が離せないとき、園などに預けていない方は特にそうだと思うんですけども、こういったのにとても答えるのが難しいのかなど。時間も必要かなと思うんですけども、先ほど母の会連合会の会長さんがおっしゃったように、やっぱりスマホ世代ですよ。QRコードという個別の管理もしっかりされたQRコードというのがあったらすごく回答にいいのかなと思います。

あと一つ、私自身、小学校の子どもがいますんですけども、4年生と5年生がいます。就学後のニーズ調査なんですけれども、2番の学校以外の子どもの居場所についてなんですけど、放課後児童クラブと放課後子ども教室という2つの枠がありますよね。実は、私が下条小学校でお世話になっているんですけども、こちらの放課後子ども教室というのが設置されています。これというのは、学童児童クラブとは違っていて、ここにありますように、地域の方々の協力を得て過ごす場所を提供してくださっています。下線にありますように、土日祝日や夏休み等、長期休暇中は利用できませんという状況でございます。学校に通学のある日の放課後に希望者のみお願いしているんですけども、夏休み、長期休暇のときには、ほかの近くの小学校にお願いをして、受け入れを昨年度までしていただいていたんですけども、今年は豊橋市のホームページを見させてもらったら、結構、早い段階で今年はまだ既に定員がいっぱいなんですということで、夏休みの長期の受け入れはできませんと書いてありまして、問い合わせもさせていただいたんですけどもできませんでしたということで、やっぱり小さい低学年の家庭は困っている子がいて、地域がら農業が多くておばあちゃん、おじいちゃんがいるからということニーズが少ないということで設置がもともとないのかなという気がするんですけども、そういったところでも引っ越されてきた方とか、必要な方がいるかどうかという調査を含めていただくと、学童を直接設置していただくのは難しいかなと思いますので、必要ならばその人数に応じて近くのところで受け入れをしていただけたらとか、そういったことがあったらうれしいなと思います。今ちょっと思いついたことで、すみませんが。

#### 長田委員

2つです。一つは、話が戻ってしまって申しわけないです。配布回収のゼロ歳から2歳のお子さんのところに、ゼロ歳から2歳で園に通っている子のところに配布というのはどうだろうかという話が先ほどあったと思うんですけども、そうするとゼロ歳から2歳の園に通っている子の回収率が高くなって、ゼロ歳から2歳の園に通っていない子の郵送の回収率は変わらないということになると差ができると思うんです。私的には園に通っているか、通っていないかは関係なく、ゼロ歳から2歳の子をざっくり抽出するほうがなんとなく公平じゃないけれども、回収率的には公平なのかなとちょっと思いながら聞いていました。

もう一つ、最初に市の方が話をされたときに、このニーズ調査の量の見込みを出して量を達成することが目的の一つということになっているはずで、そのもとの理由というのが量を達成することが目的なんだけれども、その前の目的は少子化に歯どめをといるはずなんですけれども、これは国の問題でもあるかと思うんですけども、結局少子化にははどめはかかっている感じはしないと思うと、なんだろう。ちょっと違うんじゃないかなど。これは豊橋市の問題ではないですけども、なんとなく少子化に歯どめをかけたいがために、この子育て支援があつて量を達成したらなんとかなるんじゃないかなみたいな話で、一生懸命量を追いかけて、それに見合うように、例えば、学童をつくってみたり、園をつくってみたり、量を達成しようとしているんですけども、でもそれでは少子化に歯どめはかかっているような気がしないと思うと、どうしたらいいのかなというのをちょっと思いつつ、アンケートに、自分なりにちょっと就学前用を答えてみたりしてたんですけども、すみません、すっきりしない言い方で申しわけないです。

あと、就学前用のアンケートはやっぱり私も家でやってみたんですけども、小一時間かかっ

たんです。量が多いなと思って、これは私がもらったら、多分、昔だったら答えなかつたらうなとか、返せなかつたらうな。期限が過ぎてあつ期限が過ぎたなと思ってしまつて返せなかつたかなと思うと、やっぱり量を減らしてとか、答えやすいような形にしていきたいな思うんですけども、どうすればそういう形になるのかとかいうのをちょっと考えたんですけども、いい答えが思いつかずすみません。でも、できるだけ答え易く、皆さんの意見が多く反映されるといいなと思うので、答えやすいアンケートになるといいなと思いました。すみません、以上です。

#### 福岡委員

アンケートについて、せんだつて私自身自分の住んでいる地域に、県から梅田川の流域についてのアンケートが一住民として来ました。ボリューム的にはこれの恐らく3分の2ぐらいだったかと思いますが、まあまあ時間をかけて解きました。このボリュームで前回50%の回答があったというのはすごいなというのが正直な感想で、それだけ熱心に子育てについてのアンケートは忙しい中でも御協力をいただける現状があるんだなということを感じました。そうすると、それだけのものを書いていただいた方への責任があるということも一つ感じますし、ではどうやって負担をなくすかとかいうと项目的になかなか削る項目というのはない気がしますので、例えば、僕も数ページ答えていってみたんですけども、リズムをよく答えられるということができるといいな。リズムというのは何かとかいうと、小学校区を答えるのは恐らくすごいテンポでリズムよく答える。先ほど言いました選択肢の項目を恐らく具体的にお示ししたほうが答えやすいという配慮の中で項目をふやされていると思うんですが、読み解くのに大変だという御意見との考え合わせをすると、恐らく10以下、もしくは8以下ぐらいだと選択肢の効果があつて、10を境目に負担感に変わるといふことなのではないかなというふうに見て思つております。それが実際にどこまで反映できるかはわかりませんが、恐らくリズム感ということ言えば、その選択肢の項目の増やすところをなるべく少なくしていくと、それが少しできるのではないかなというふうに思います。

以上です。

#### 藤城会長

ありがとうございました。

何か御意見ありませんかと聞くとなかなか出ないものでして、順番に回していくとこんなに出るもんだ。実際、いろんな多岐にわたるいろんな御意見が実は、本当にもっともっと時間をしっかり使えばもっとたくさんの方が出していただけののかな、そんなようなことを感じました。丹羽委員、福岡委員が言われたように、選択肢、確かにそうだよな。これだけ選択肢。これはとっても親切なんだけど、親切過ぎてどこにしようかなという。これで読むのに時間がかかっちゃうのかな。だから、本当のこの辺をぱつと丸が打てるくらい、一目で何が書いているかわかるぐらいの感じであれば、やっぱりもう少し答えてみようかなという気になるのかもしれないということがあります。QRコードをお二人から出していただきました。QRコードもこれからの時代、絶対的に必要なことかなと思いますので、今後に結びついていくようなことであればとそんなことを感じました。種井課長、夏休みの放課後のことについて、たまたま今日お出しいただいたので、市P連のほうの。せっかくなので課長の口から何か一言あれば、きょう出てきてよかったなということと思われるかもしれない。

#### こども家庭課長兼こども若者総合相談支援センター長

今年度については、春からも非常に利用したいという方が多くて、正直な話、待機の方も出



ているような状況でございまして、例年ですと何人か各クラブ受け入れの余裕があつて、夏休みに入つていただけるような状況があるものですから、下条の方とか、賀茂の方とかも入れるような状況があつたんです。はっきり言って苦しい状況です。下条も含めて放課後児童クラブがない地域がございまして、そこについてはまた今後考えていかなければ、我々はいけないなという認識を持っておりますので、ただ、来年、再来年、すぐできるかと言われるとそこはなかなか難しいところではございますので、いろんな御意見をいただきながら考えていきたいと思つております。答えになっていないかもしれないので申しわけないですけれども、以上です。

#### 藤城会長

いかがでしたか。高柳委員のすっきりしたお答えにはきつとなつていないかもしれませんが、発言をいただいたことによつて、今お答えをいただいたことで何か考えていかないとなつてという思いをきつともつておられると思つておりますので、部長も聞いておられますし、何か今後、確かに子どもたちが居場所がなくつて、行き場所がなくつてというのかな。安心して遊んでいる、勉強している場所がなくつて大変だということは全市的にもそういう様子は、私も実はいろいろと伝わつてきておりますので、そういったところもしっかりと行政の方たちもわかつて、きつと全員わかつていふと思つております。私も感じてはいるんですが、でもそこをどう動いていくのかというのは、私たちの意見がたくさん出てこないとなつて行政というのはなかなか動きに加速を増していかないわけですので、こうしてそういったところで御意見を出していただくことが大切なのかなとこんなふうには思つておりますので、貴重な意見だつたのかなとこんなことも感じております。

そのほか、これだけはもう一個言わなきゃという人はいませんか。そろそろ終わりますけれど、どうですか。何かありましたらよろしいですか。

それでは、次第2につきましては、以上ですし、それ以外の御意見も一応今日の会議においては出していただいたとこんなふうには御判断をいただきまして、その他につきまして、事務局、そちらに移つてまいりたいと思つておりますがいかがでしょうか。何か連絡等ございましたらどうぞ。

### 3. その他

#### 事務局

本日いただきました意見等も踏まえまして、また国からの方向性指針のほうを示されるのは今日、明日中ということになりますので、そちらも簡易で伝えられるようなことがありましたら、もちろん、郵送でお送りいたしますし、今日の質問の中でも御意見をいただくに当たつて、お伝えしなければならぬ内容につきましてもあわせてお送りいたしますので、それらを含めて、また御意見等をいただければと思つておりますので、よろしくお願ひいたします。

#### こども未来政策課長

それでは、皆様、長時間にわたりまして活発に御意見をいただきましてありがとうございました。今、補佐からもありましたけれども、多分、明日ぐらいには国から手引きのほうが来るのではないかなということですので、今日いただいた皆様の御意見を参考にさせていただきながら、国の手引きに従ひまして、できるだけ保護者の方の負担が少ない形の調査票を今後作成してまいりたいと思つております。

また、次回も近くございましてけれども、またそのときに御意見をいただきたいと思います。本日はまことにありがとうございました。

藤城会長

ありがとうございました。ぜひ、いろんな情報を集めていただきまして、またいろんな思いを皆さんから聞き取っていただいて、次回は1カ月後にもなりません、もっと早いですが、そのときにまたいろんな貴重な御意見をこの場で聞かせていただけたらありがたいなど、こんなふうに思っております。

それでは、以上をもちまして、平成30年度第1回の豊橋子ども・子育て会議を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。